上郡町で得られた兵庫県で記録のない蛾類について

大貝秀雄[1)]

はじめに

筆者はかつて，上郡町にある自宅敷地内の昆虫相を調査して 656 種の蛾類を記録し（大貝，2018），その後，一部の修正ならびに追加記録により 40 種が追加され（大貝，2022），合計 696 種を自宅敷地内で確認された蛾類として報告した．以上の拙著の成績も含めて，宇野ら（2024b）は兵庫県産の蛾類の記録を市町別にまとめ，結果を「兵庫県産蛾類分布記録データベース」として NPO 法人こどもとむしの会のホームページ上に公開した．それによれば，上郡町での記録が兵庫県下の市町で唯一の記録にあたる例が想定外に多種類であることがわかった．その多くは，ツトガ上科，ハマキガ科，キバガ上科に属する小蛾類であったが，ヤガ科の小型種もすくなからず含まれていた．それらの中でもヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis* とブドウオオトリバ *Platyptilia ignifera* について，宇野（2024）は特にコメントを記しているので，これら 2 種について標本写真を付して再度記録することとした．

また筆者の昆虫相調査報告（大貝，2018）ではテングイラガとして *Microleon longipalpis* の学名で記録していたが，宇野（2024）の指摘の通り，実はそれ以前に日本産のテングイラガ属は再検討され 3 種に分割されていた．そこで Sasaki (2016) に従い，当時の標本を改めて検討したので，その結果を示す．

また筆者が折にふれ上郡町内で採集・確認した蛾類の中に，宇野ら（2024a）ならびに，その後に西播磨地域から多くの希少な蛾類を記録した高橋（2025）に基づき兵庫県未記録と判断された種がいくつか認められたので，併せてここに記録する．

ヨツモンキヌバコガとブドウオオトリバの再記録

ヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis* (Felder & Rogenhofer, 1875)

高田台：1 ♀, 28-V-2006．開張 13mm．図 1.

国内では北海道，本州，四国，九州に分布し，寄主はアカザとシロザ．

夏型は 6 月頃から摂食活動し夏に羽化するというので，5 月末に得られた高田台の標本は秋に蛹化して越冬した個体であったと考えられる．これは食草とは縁のないカモミールの花で得られたもので，吸蜜していたものと思われる．和名の由来となった前翅の橙黄色斑があらわれるのは夏型の特徴である．

ブドウオオトリバ *Platyptilia ignifera* Meyrick, 1908

高田台：1ex, 11-XI-2007．前翅長 8.5mm．図 2-a,b.

国内では北海道，本州，九州と対馬から記録されている．ブドウ，ヤマブドウ，ヤブガラシが奇主とされる．

黒味の強い中形のトリバガで，中後脚の脛節とふ節に鱗粉が輪状に配列されることが種の重要な特徴の一つである．しかし小蛾について全くの初心者であった筆者の拙劣な標本作製の結果，わずかに左後脚のみが捻くれた形で残っていた（図 2-b）ので，それをもとに辛うじて同定結果を追認することができた．

上郡町では船坂地区を中心にブドウ栽培が盛んであり，また家庭菜園に植栽されているケースも少なくない．そのような寄主で発生した個体が飛来したものが 2007 年の記録であった可能性が想定される．

テングイラガ *Microleon longipalpis* の記録の訂正

正：キマダラテングイラガ *Microleon decolatus* Sasaki, 2016

高 田 台：1 ♀, 13-VIII-2006, 1 ♀, 10-VI-2012, 1 ♀, 2-X-2016．開張 17.5 ～ 19mm．図 3-a,b,c.

2016 年採集の雄標本の交尾器を検討した結果，gnathos の T 字形の上辺は幅広く，かつ上辺に顆粒状の骨片が密に認められた（図 3-b）．また 4 本の sacculus arm の 1 本が他より顕著に長い（図 3-c）ことから，当該標本を本種と判断した．

キマダラテングイラガの前翅の黒褐色斑は，日本産同属 3 種の中では中間的で，よく発達するものから微弱なものまである（佐々木，2016）．上郡産（図 3-a）は交尾器未検討の雌個体も含めすべて黒褐色斑の発達が

[1)] Hideo OGAI　兵庫県上郡町

比較的弱いタイプであった．

従来テングイラガとされてきた種は３種に分割されたが，いずれも本州には広く分布するようなので，本種以外の２種も兵庫県から記録される可能性は大いにあると思われる．

兵庫県未記録と考えられる上郡産の蛾類

クチブサガ科

ミダレモンクチブサガ *Ypsolopha distinctatus* Moriuti, 1977

旭日：1ex, 23-VII-2022．開張 19mm．図 4.

本州，九州，対馬，奄美大島に分布．ウバメガシを寄主とする．色彩と翅の斑紋の変異が大きいとされる．

旭日の杉植林地と渓流に挟まれた道沿いの下草をスイーピングして得た．

サビイロクチブサガ *Ypsolopha fujimotoi* Moriuti, 1964

小野豆：1ex, 19-VI-2022, 2ex, 8-VII-2022．開張 25 ～ 26mm．図 5.

日本産蛾類標準図鑑第３巻では九州にのみ分布するとされていたが，その後，大阪府，岐阜県，石川県，千葉県など本州各地で散発的に記録されている（清水，2016；宮野，2018；斎藤，2019；富沢，2022）．寄主は不明．

小野豆では同一木と思われる樹種未確認の小高木から得られた．

ヒラタマルハキバガ科

ヤマウコギヒラタマルハキバガ *Agonopterix encentra* (Meyrick, 1914)

佐用谷：1ex, 19-VII-2022．開張 24.5mm．図 6.

国内では本州から記録されている．寄主はヤマウコギ．

写真で特に右の前翅に見える暗色の蛇行する縦条と，前翅中室端にある黒斑ならびにその中央の青灰色鱗が種の特徴として重要とされる．

ニセマイコガ科

シロテンクロマイコガ *Atrijuglans hetaohei* Yang, 1977

旭日：1ex, 17-VII-2022, 光都：1ex, 27-VII-2023．開張 13mm．図 7.

国内分布は北海道，本州，四国，九州，奄美大島，西表島．クルミ，マタタビを寄主とする．

旭日では渓流沿いのオニグルミ樹梢で得たので，オニグルミも寄主になる可能性がある．光都では林間の陰湿な下草から得た．

カザリバガ科

アシブサトガリホソガ *Ashibusa jezoensis* Matsumura, 1931

旭日：1ex, 1-VI-2025．開張 16mm．図 8.

北海道，本州，九州に分布．寄主は不明とされているが，鈴木（2021）はオオバアサガラの朽ちた細枝中にいた幼虫から本種を羽化させている．

旭日の杉植林地と渓流に挟まれた道沿いの下草スイーピングで得た．

キバガ科

クルミシントメキバガ *Thiotricha trapezoidella* (Caradja, 1920)

上郡　鞍居川河川敷：1ex, 28-III-2023, 旭日：1ex, 1-VII-2019．開張 17 ～ 19mm．図 9.

国内では北海道，本州，四国，九州に分布．寄主はサワグルミとオニグルミ．前翅斑紋や色彩に変異が大きいとされる．

小規模な河川沿いに群生したオニグルミの樹梢より得た．

図 1：ヨツモンキヌバコガ♀．

図 2:ブドウオオトリバ．a 全形（背面），b 左後脚．

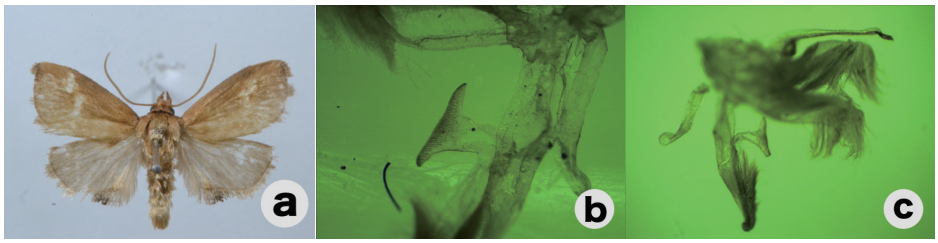

図 3：キマダラテングイラガ♂．a 全形（背面），b・c ♂交尾器．

オドリキバガ *Dichomeris hoplocrates* (Meyrick, 1932)

与井：1ex, 14-VI-2018．開張 14mm．図 10.

北海道，本州，四国，九州に分布．ヘビイチゴ，ホウロクイチゴ, フユイチゴ, ナワシロイチゴを寄主とする.

昼間に日蔭の葉上でクルクル舞をしていたものを採集した．同様の例は You Tube で公開されているケースもあり，この行動が和名の由来と考えられる.

マダラガ科

ヒメクロバ *Artona funeralis* (Butler, 1879)

高田台：1 ♀, 22-IX-2023．与井：1 ♂, 14-VI-2018．野桑：1 ♂, 19-I-VI-2025．旭日：1 ♀, 19-IX-2019．開張 16 ～ 18mm．図 11.

国内では北海道，本州，九州に分布．ササ類を寄主とする.

上郡では陰湿地の下草などでよく見られる．昼行性の極めて地味な種なので注目されることが少なかったかと思われる.

ハマキガ科

オオナミモンマダラハマキ *Charitographa mikadonis* (Stringer, 1930)

八保丙：1 ♂, 14-VI-2021．開張 15mm．図 12.

国内分布は本州，四国，九州．寄主はキタコブシとホオノキとされている.

本種は複雑な斑紋をもつあでやかな種である．標本作製時に汚損したものの，種の特徴である翅頂付近の黄色線や後縁の白色線，外縁の 4 黒点を確認することができる.

コクワヒメハマキ *Olethreutes morivora* (Matsumura, 1900)

与井新：1 ♀, 18-VI-2023．小野豆：1ex, 25-VII-2022．開張 16mm．図 13.

国内では北海道，本州，九州，対馬に分布し，クワを寄主とする.

野生化したクワは上郡町では里山のふもとなどに多く見られる.

マノヒメハマキ *Olethreutes manoi* (Kawabe, 1987)

旭日：1ex, 9-IV-2023．前翅長 8mm．図 14.

本州のみから記録されており，アラカシが寄主であるとされる.

前翅の中央やや外よりに白点がある．展翅時に右前翅と腹部を損傷した．杉植林地と渓流に挟まれた車道周辺の下草スイーピングで得たもので，渓流沿いにはアラカシも点在する.

トリバガ科

ウスキヒメトリバ *Adaina microdactyla* (Hübner, 1813)

八保丙：1ex, 2025 年 6 月 27 日．開張 12mm．図 15.

国内では北海道，本州，九州のほか，奄美大島以南の主要南西諸島と小笠原父島母島から記録され，国外でもアジア, ヨーロッパなどに広く分布するとされる. ヨーロッパではフジバカマ属の茎に虫こぶを作るという.

八保丙のトンネル入口付近の壁に静止していたもので，夜間トンネル天井の照明に誘引されたものと思われる.

メイガ科

フタスジフトメイガ *Termioptycha bilineata* (Wileman, 1911)

八保丙：1 ♂, 3-VIII-2024．開張 25mm．図 16.

国内分布は本州（近畿地方以西），九州，屋久島，西表島．ヌルデを寄主とする.

標本は鱗粉が脱落して不明瞭であるが，マキシラリパルプスに黄白色の長鱗毛があることから候補は絞られ，前後翅の横脈上に黒点が認められるので本種と判断した.

ヤガ科

ツマムラサキアツバ *Olulis japonica* Sugi, 1982

八保丙：1 ♀, 19-VIII-2025．開張 27mm．図 17.

本州（関東地方以西），四国，対馬，屋久島，沖縄本島に分布し, 暖地に産するが少ないとされる. 寄主は未知.

夜間トンネル天井の照明に誘引されたものと思われる.

おわりに

「兵庫県産蛾類分布記録データベース」の構築は，兵庫県産の昆虫相解明に向けての画期的な成果であった．これに基づいて本報では，これまで兵庫県から記録のなかったと思われるキマダラテングイラガの他に，14 種を新たに記録することができた．ただ，ホソガ上科，スガ上科，キバガ上科，ハマキガ科などの小型で地味な種には，まだ多数の未記録種が残されているように思われる．また蛾類の愛好者が夜間採集を重視することが多いためか，昼間活動性の蛾に記録漏れが多いと思われる点も気になった．今後の課題として筆者も微力ながら取り組んで行きたい.

「兵庫県産蛾類分布記録データベース」や既に公開されている広畑らの「兵庫県の蝶」，アリ類データベース作成グループ 2008 による「日本産アリ類画像データベース」（種ごとに都道府県別の分布が掲載されている）に続いて，他の分類群においても兵庫県産昆虫類の分布記録が集成されることを筆者は切望するものである．例えば，カミキリムシ科やハナバチ類の最新情報に基づく分布記録などがまとめられれば大変有用なものとなるに違いない.

引用文献

アリ類データベース作成グループ，2008．日本産アリ類画像データベース．http://ant.miyakyo-u.ac.jp/J/JADG/JADG.html（最終閲覧日 2025 年 8 月 22 日）

宮野昭彦，2018．岐阜県の蛾類相 I．誘蛾燈 (Suppl.) 11：1-156．（サビイロクチブサガ）

大貝秀雄，2018．兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相．播磨長翅目研究センター，上郡．94pp.

大貝秀雄，2022．『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相』の正誤リストならびに，この昆虫相に新たに追加される種名一覧．きべりはむし，45(2)：61-65.

斉藤 修，2019．サビイロクチブサガを千葉県で採集．蛾類通信，(288)：317.

Sasaki, A. 2016. A taxonomic note of genus *Microleon* (Limacodidae) in Japan, with descriptions of two new species. 蛾類通信，（279）：99–106.

清水 一，2016．サビイロクチブサガを大阪府南西部で採集．誘蛾燈，224：50-51.

鈴木知之，2021．鈴木友之の幼生期探訪⑥・アシブサトガリホソガ．月刊むし，（606）：11-13.

高橋弘樹，2025．2021 年～ 2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について．きべりはむし，48(1)：86-100.

富沢 章，2022．「石川県の蛾類 ,2020」以降の初記録種および注目すべき蛾類．とっくりばち，(90)：21-28.

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024a．兵庫県産蛾類分布記録データベース．https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html（最終更新日 2024 年 10 月 18 日）

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多，2024b．兵庫県産蛾類文献目録 2024．きべりはむし，47(1)：45-62.

宇野宏樹，2024．兵庫県産蛾類の概観について―兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって―．きべりはむし，47(2)：12-27.

追記

本稿の投稿後に「兵庫県産蛾類分布記録データベース（2025 年版）」が公開された．本稿中「兵庫県未記録と考えられる上郡産の蛾類」の項に挙げた各種が，兵庫県では未記録であることを改めて確認した．

図 4：ミダレモンクチブサガ.

図 5：サビイロクチブサガ.

図 6：ヤマウコギヒラタマルハキバガ.

図 7：シロテンクロマイコガ.

図 8：アシブサトガリホソガ.

図 9：クルミシントメキバガ.

図 10：オドリキバガ.

図 11：ヒメクロバ♂.

図 12：オオナミモンマダラハマキ♂.

図 13：コクワヒメハマキ.

図 14：マノヒメハマキ.

図 15：ウスキヒメトリバ.

図 16：フタスジフトメイガ.

図 17：ツマムラサキアツバ♀.